

「市長と語ろう、私たちのまちづくり」を開催しました！

12月24日（金）南丹市、南丹市議会、南丹市教育委員会が主催となり、今回で4回目となる「市長と語ろう、私たちのまちづくり」を、南丹市議会議場で開催しました。

南丹市立小中学校の児童生徒11人（小学生7人、中学生4人）が「ふるさと南丹市の10年後は、どうなっていてほしいか」をテーマに意見発表を行いました。



動画やイラストを使い、児童生徒が市長と意見を交わしました

主な提言内容

- ・みんなが集う公園、自然を生かした遊び場の設置
- ・環境について考えるイベントの開催
- ・南丹市の歴史や文化の継承
- ・あいさつを通じたまちづくり
- ・自然を活かしたイベントの創出
- ・公共交通機関の利便性の向上

◇南丹市教育委員会の取り組みと事業展開について◇

学校施設の整備について

（教育総務課）

令和2年度に行った小学校のトイレの洋式化と特別教室へのエアコン設置に引き続き、令和3年度は、中学校のトイレの洋式化と特別教室へのエアコン設置を行いました。

蓋のある洋式トイレは、和式トイレに比べてウイルス等の空気感染防止に一定の効果があるとされており、エアコンの設置とあわせて、児童・生徒のみなさんが安心して快適に学校生活を過ごせるように、学習環境の整備を行いました。

学校施設は、一日の大半を過ごす子供たちの生活場所となるため、今後も生活様式の変化にあわせた感染症対策と、児童・生徒の健やかな学びの保障の両立に努めていきます。



GIGA スクール構想について

（学校教育課）

GIGAスクール構想によって南丹市内の小中学校に一人一台学習用タブレット端末が整備されました。子ども達は学習用タブレット端末の操作にも次第に慣れていき、調べ学習や発表の場面では、学習用タブレット端末を使用して意欲的に学習に取り組むようになっていきます。さらに、意見や考え方を共有するアプリを授業の中で効果的に活用することにより、子ども同士の交流も活発になってきています。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、長期自宅待機となった子ども達の家庭学習をサポートするため、学習用タブレット端末を自宅に持ち帰りオンライン学習にも取り組んでいます。

学校での積極的なICT機器の活用により、学習効果がより高まっています。



美山山村留学事業について

（社会教育課）

南丹市美山町で実施している美山山村留学事業。令和3年度は7名の児童が1年間保護者の元を離れ、美山山村留学センター「四季の里」で共同生活を送りながら、美山小学校に通っています。日々の生活は、指導員や寮母さん、地域の方に支えてもらい、毎週木曜日は里親宅で過ごします。

今年の冬は雪がたくさん降ったので、地元ではなかなか体験できない雪遊びをすることができました。地元に戻っても、美山のことや仲間のことを忘れずにいてほしいです。



◇各幼稚園・小学校・中学校における特色ある取り組み◇

園部 幼稚園



遊びを通して育まれる力～こままわしに挑戦！～

幼稚園では、各年齢に応じたこまを用意し、伝承遊びを楽しむ機会を作っています。3歳児は、手回しこまに挑戦。自分で回せることの喜びを感じています。4歳児は、糸ひきこまに挑戦。ちょっと難しいことが意欲をかきたてます。今までの経験からこま回しの楽しさを知っている5歳児は、友達や先生が鉄芯こまを回している姿に刺激を受け、自分もやってみようと挑戦。最初は回せなかった子も友達に教えてもらいながら回せるようになってきました。こま回しでは、回せたことが一つの自信となり、次の目的（技）につながります。何度失敗しても諦めない気持ちや試行錯誤する面白さを感じて欲しいと考え取り組んでいます。

八木中央幼稚園



5歳児 親子触れ合いウォークラリー！！～八木町の自然を親子で満喫～

今年度、5歳児は「めざせ八木めぐり名人」と名づけ、八木町内の帝釈天や清源寺、竹林公園に出かけました。八木町の地域の方や文化財等に触れることで、ふるさと八木町の良さや温かさを感じてほしい、八木町の町を好きになってほしいと願い、取り組んでいます。11月には親子触れ合いウォークラリーを行い、親子で園周辺の川沿いの道を歩いたり、ドングリを拾ったり、一緒に大縄跳びに挑戦したりしました。親子で八木町の豊かな自然に触れ、恵まれた自然の中で再発見があると共に、親子だけでなく、子ども同士や保護者同士の交流も深まり、笑顔あふれる1日となりました。八木中学校ブロックの校種間で連携しながら「地域道徳」の取り組みを進めています。

園部 小学校



地域あげての子どもの見守りを！

今回、園部小学校運営協議会の働きかけに、園部郵便局のご賛同・ご協力をいただき、郵便局員による子ども見守りが実現しました。郵便物を運ばれる局員のみなさんが、まるで「動く『子ども110番の家』」のように、子どもたちを見守ってください。

地域をあげて地域の子どもたちを見守っていこう！そんな機運が、今後ますます高まっていくことを願っています。

園部第二小学校



社会科の学習で日本と外国との違いについて調べて話し合う6年生

本校では、ICT機器の効果的な活用を通して学びを深める授業づくりに重点的に取り組んでいます。タブレットを使い、問題を解く、調べる、プレゼンテーションを作る等、学習課題に取り組んだり、考えを発信したり交流したりする等、多様な学習場面で活用しています。多様な機能から自分に合った方法を選んで課題に取り組むことで、自分の考えを整理したり分かりやすくまとめたりする力を付けています。また、一人一人の考えを共有することで、考えを広げたり、見方を変えたりしながら学び合っています。

タブレットの効果的な活用により、活発に話し、考え、「みんなで学び合うことが楽しい」と感じられる学習をこれからも目指してまいります。

八木西小学校



城山頂上で、内藤ジョアの末裔である内藤大さんとジョアの歌を歌いました

八木西小学校では、保護者や地域の方とともに取り組む地域道徳を進めています。地域の方とお米作りやお芋掘り、城山登山やお掃除名人に掃除のコツを教えてもらったりするなど、地域の方と触れ合いながら地域を学び舎に様々な体験活動に取り組んでいます。

また、今年度はおうちの方にも道徳の授業に参加していただき、考え、議論する道徳学習「みんなでどうとく」に取り組んできました。「子どもといっしょに考える貴重な時間となりました」などのお声をいただき、大人も子どもも共に道徳的価値観を深める機会となりました。地域道徳を通して、大人も子どももともに学び、八木の町を愛してやまない「八木西 大好き!」の気持ちを育てていきます。

八木東小学校



特別支援コーディネーターが、具体的な例を挙げて理解教育の授業を行います

本校の人権教育を基盤とした教育活動を推進していくために欠かせないのは、特別支援教育の充実です。人それぞれの障がいの多様性を尊重し、一人一人を理解していこうとする態度や行動力を身に付けていくためには、定期的な学びの場がとても大切です。人はみんな生まれてきたこと、人には個性があり得て不得手があること、人それぞれに成長のスピードが違うこと、人に合った支援や配慮(教育)が大切なこと、そのため互いにわかり合い助け合える仲間づくりが大切なことなど、児童への理解教育をすすめています。

殿田小学校



殿田小学校産黒豆味噌の完成! お雑煮にぴったり!!

今年度、全学年で「ふるさと学習」に取り組んでいます。3年生では、地域の方にお世話になり、日本の伝統的な食材である黒豆を栽培しました。1粒の種から、たくさんの枝豆や黒豆ができることを、体験を通して知りました。

また、冬には黒豆を使った味噌づくりにも挑戦。日本の伝統的調味料である白味噌を地域の方と一緒に作りました。皮をむいたり、麹や塩と混ぜたりするなど、一つ一つの工程を教えていただきながら丁寧に行い、最後に温蔵庫で熟成。学期末には見事な白味噌が完成しました。多くの方に支えられながら、心が温まる活動となりました。

胡麻郷小学校



地域の高齢者の方々にお手紙を送った5年生

本校の地域道徳の取組として5年生では、地域の高齢者の方に笑顔・元気になってもらおうと、手紙や年賀状を送りました。涙が出るほど喜んでもらったことを頂いたお返事から知りました。このことがきっかけとなり、校内マラソン大会では、児童の名前を書いたカードを持って沿道で応援してくださる方の姿も見られました。地域の方に大切にされていることを実感すると同時に、自分達も地域の方に勇気や元気を与える存在であることを強く感じ、地域道徳の取組を通して、「つながり」の大切さを学んでいます。

美山小学校



6年生を送る会の準備をする5年生

5年生の子どもたちが、6年生を送る会に向けて取り組みました。実行委員、司会、発表、スローガン、プログラム、くす玉の係に分かれて、グループごとに話し合ったり、準備物を整えたりしながら活動を進めました。時間の終わりには、各担当の進捗を報告しあって、一人一人が自分の役割を果たしつつ、5年生みんなで行事の成功に向けてチームワークを高めていくことを確かめました。送る会は大成功でした。最高学年としての歩みがスタートしました。

園部中学校



いのちの学習講演会

本校では、年間を通して「いのちを大切に取る取組」を行っています。その一貫として、アジア各国の貧困地域を撮影・調査・支援しておられるカメラマンの池間哲郎氏を講師としてお招きし、本校PTAのご協力の下、「いのちの学習」講演会を12月に開催しました。

訪問された国々で、懸命に生きる子どもたちの姿を目の当たりにされてこられた池間さんの講演から気づかされることはとても多く、講演後の感想には、「自分の今の生活は決して当たり前ではないこと」や「今の自分の人生を精一杯生き抜きたいこと」等、たくさんの気づきがつづられていました。

八木中学校



友達の保護者と意見交流、議論の様子。当日は生徒がグループ毎に司会進行・記録を務めました。

八木中学校ブロックで進めている「地域道徳」の一環で「みんなで道徳」という保護者や地域の方と一緒に道徳の授業に取り組んでいます。昨年12月には1年生が保護者と一緒に、「これからのスマートフォンとの付き合い方」をテーマに意見交流と協議をしました。

1年生は大人の視点での意見を聞いて参考にしたり、参加された保護者は子どもの意見を聞いて納得されたりと、様々な考え方、価値観に触れる機会がもて有意義な道徳の授業となりました。

今後は保護者に加え、地域の方とも一緒に議論し、様々な意見や考えに触れながらともに高まり合う取組として実施したいです。

殿田中学校



オンラインで実施した進路集会

殿田中学校では、豊かな学校生活を創造するために、月に一度、水曜日の放課後を「特活の日」とし、生徒の主体的な活動に取り組んでいます。2月は「進路」に関する生徒集会でした。今回は感染症予防のため、学年ごとに分かれてオンラインで行いました。集会では、3年生から将来の夢や受験を前にして思うこと、下級生へのアドバイスが、卒業生からは、高校生活の紹介や将来への展望、中学生へのアドバイスがありました。進路実現に挑む3年生の姿や卒業生の話から自分を見つめ直しました。タブレットのチャット機能を利用して、随時、感想や質問も出され、お互いが進路について考えを深める貴重な時間となりました。

美山中学校



京都府小論文グランプリ表彰式での受賞者

本校では毎年、表現力の育成を目指した小論文の作成に取り組みます。今年もテーマ別のゼミに分かれ、学校生活や社会を様々な視点で見つめ直し、日頃の関心事・疑問点を基に自分の考えを論じました。例年の教科、人権、環境、道徳観等に加えて、コロナ禍での生活様式、医療従事者への感謝、社会の情報化等、昨今の状況を踏まえたテーマが選択されたのが特徴的でした。京都府小論文グランプリでは3名の作品が優秀賞・入選として表彰されました。今後も、未来を生きる生徒達の生活を支える基盤として、自分の考えを論理的にまとめ、分かりやすく伝える力の育成に取り組んでいきたいと考えています。

桜が丘中学校



日本の伝統文化を生徒会活動を通して学ぶ

今年度、桜が丘中学校(園部小分教室を含む)では、生徒会活動の一環として「百人一首大会」を実施しました。文化委員会が中心となり計画・運営を担当しました。当日に向けて仲間と問題を出し合うなど、意識を高めて取り組みました。

本校においては初めて行う行事でしたが、終始和やかな雰囲気の中で開催することができました。全校生徒参加の中、学年の垣根を越えて日本の伝統文化に触れる時間にすることができました。